

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成27年4月23日 (2015.4.23)

【公表番号】特表2014-510728(P2014-510728A)

【公表日】平成26年5月1日 (2014.5.1)

【年通号数】公開・登録公報2014-022

【出願番号】特願2013-557888(P2013-557888)

【国際特許分類】

A 6 1 K	45/06	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
A 6 1 K	39/395	(2006.01)
A 6 1 K	38/00	(2006.01)
A 6 1 K	38/21	(2006.01)
A 6 1 K	48/00	(2006.01)
A 6 1 K	35/76	(2015.01)
A 6 1 K	39/00	(2006.01)
A 6 1 K	31/352	(2006.01)
A 6 1 P	35/04	(2006.01)
A 6 1 K	31/517	(2006.01)
A 6 1 K	31/5377	(2006.01)
A 6 1 K	31/506	(2006.01)
A 6 1 K	31/44	(2006.01)
A 6 1 K	31/4196	(2006.01)
A 6 1 K	31/4355	(2006.01)
A 6 1 K	31/566	(2006.01)
A 6 1 K	31/585	(2006.01)
A 6 1 K	31/485	(2006.01)
A 6 1 K	31/138	(2006.01)
A 6 1 K	31/415	(2006.01)
A 6 1 K	31/42	(2006.01)
A 6 1 K	31/255	(2006.01)
A 6 1 K	31/403	(2006.01)
A 6 1 K	31/437	(2006.01)
A 6 1 K	31/7088	(2006.01)
A 6 1 K	31/4418	(2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K	45/06	
A 6 1 P	43/00	1 2 1
A 6 1 P	35/00	
A 6 1 K	39/395	N
A 6 1 K	37/02	
A 6 1 K	37/66	G
A 6 1 K	48/00	
A 6 1 K	35/76	
A 6 1 K	39/00	H
A 6 1 K	31/352	
A 6 1 P	35/04	
A 6 1 K	31/517	

A 6 1 K 31/5377  
A 6 1 K 31/506  
A 6 1 K 31/44  
A 6 1 K 31/4196  
A 6 1 K 31/4355  
A 6 1 K 31/566  
A 6 1 K 31/585  
A 6 1 K 31/485  
A 6 1 K 31/138  
A 6 1 K 31/415  
A 6 1 K 31/42  
A 6 1 K 31/255  
A 6 1 K 31/403  
A 6 1 K 31/437  
A 6 1 K 31/7088  
A 6 1 K 31/4418

【手続補正書】

【提出日】平成27年3月2日(2015.3.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ヒトの悪性黒色腫、あるいは原発性または転移性肝がんの治療方法であって、併用治療レジメンにおいて、少なくとも一つの悪性黒色腫、あるいは原発性または転移性肝がん性の腫瘍のアブレーションを誘起する治療有効量の(1)病巣内ケモアブレーション用医薬組成物を投与し、その後、免疫系下方制御に対する全身性阻害剤または免疫系上方制御に対する全身性阻害剤である、(2)治療有効量の全身性免疫修飾抗がん剤を別に投与することを含む方法であって、

前記病巣内ケモアブレーション用医薬組成物は、ローズベンガルを0.1%(w/v)以上の濃度で含有する水溶液、またはローズベンガルの生理的に許容可能な塩を含む、適切な医薬組成物中にローズベンガル(4,5,6,7-テトラクロロ-2',4',5',7'-テトラヨードフルオレセイン)を含有する病巣内(IL)ケモアブレーション用薬剤、を含み、前記病巣内ケモアブレーション用医薬組成物は、少なくとも一つの前記悪性黒色腫、あるいは原発性または転移性肝がん性の腫瘍の病巣内へ約0.1mL/cc病変体積から約2mL/cc病変体積投与される方法。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の方法であって、免疫系下方制御に対する全身性阻害剤である前記全身性免疫修飾抗がん剤は、抗CTLA-4抗体を含む、ことを特徴とする方法。

【請求項 3】

請求項 1 に記載の方法であって、前記ローズベンガルはローズベンガル二ナトリウムである、ことを特徴とする方法。

【請求項 4】

請求項 1 に記載の方法であって、前記ローズベンガルの濃度は、約0.1%～約20%(w/v)であり、前記医薬組成物は、ナトリウム、カリウム、カルシウム、およびマグネシウムからなる群より選択される少なくとも1つのカチオンと、塩化物、リン酸塩、および硝酸塩からなる群より選択される少なくとも1つのアニオンとを含む電解質を含み、

前記電解質の濃度は約 0.1% (w/v) ~ 約 2% (w/v) である、ことを特徴とする方法。

【請求項 5】

請求項 4 に記載の方法であって、前記 IL ケモアブレーション用医薬組成物中の前記電解質の濃度は 0.5% (w/v) ~ 1.5% (w/v) である、ことを特徴とする方法。

【請求項 6】

請求項 1 に記載の方法であって、前記ケモアブレーション用医薬組成物の浸透圧は、約 100 mOsm/kg より大きい、ことを特徴とする方法。

【請求項 7】

請求項 4 に記載の方法であって、前記電解質は塩化ナトリウムである、ことを特徴とする方法。

【請求項 8】

請求項 1 に記載の方法であって、前記医薬組成物は親水性賦形剤を含む、ことを特徴とする方法。

【請求項 9】

請求項 1 に記載の方法であって、前記医薬組成物の pH は、約 4 ~ 約 10 である、ことを特徴とする方法。

【請求項 10】

請求項 9 に記載の方法であって、前記医薬組成物の pH は、約 5 ~ 約 7 である、ことを特徴とする方法。